

古民家の野外博物館

# 日本民家園だより

昭和62年度第2号

〈通号第9号〉

発行 62・8・1

川崎市立日本民家園

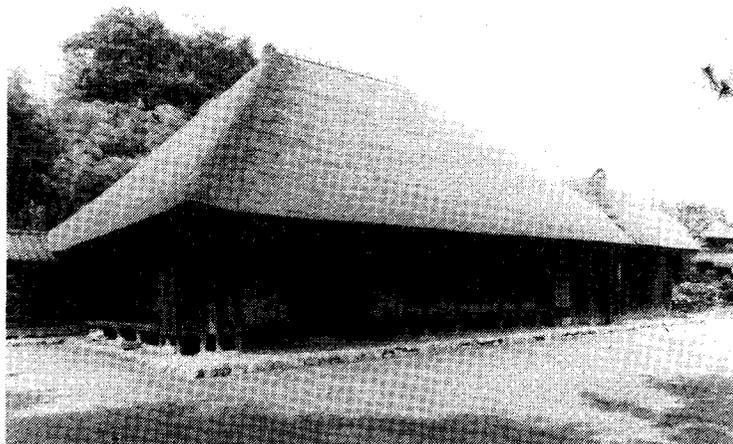
川崎市多摩区枳形7-1-1

電話(044)922-2180~1

印刷(資)永申社

## 曲がりくねった梁の豪壮さをもつ旧作田家住宅

- ・旧作田家住宅
- ・国指定重要文化財
- ・寄棟造り茅葺き 二棟  
(分棟型)
- ・平面積 253.54㎡  
(76.8坪)
- ・旧所在地 千葉県山武郡九十九里町 作田 3705
- ・昭和42年12月 作田 紋平氏より川崎市に寄贈
- ・昭和43年6月 解体移築に着手
- ・昭和44年3月 移築完成
- ・昭和45年6月 国の重要文化財に指定



旧作田家住宅

### ◆ 九十九里の網元の家

この家は、もと山武郡九十九里町にありました。昔は全国一の「いわし漁」で栄えたところです。

作田家は姓も地名も同じ作田で、大網元であり名主なども兼ねていた名家です。

作田家の敷地は 縦90m、横72mもあり、その中に味噌蔵・物置・離れ座敷・土蔵三棟・浴室などの付属屋とともに建っていましたが、主屋と浴室が昭和43年に日本民家園に解体移築されました。

写真のように、二つの棟から成っています。このような民家を別棟造りとか、分棟型と呼んで

います。南の島々や大平洋岸の各地にみられる南方系の建物です。土間に入って左上方を見ると曲がりくねった松材の梁の見事さに感嘆します。まさに海の男の豪壮さがこの建物に現われているようです。

### ◆ みどころ

- ・三室続きの座敷
- ・かみの仏壇と押板
- ・かみの曲がりくねった梁組み
- ・瓦葺きの浴室と便所
- ・主屋と釜屋の境の大きな雨樋

# 20周年を機に 就任にあたって

川崎市立日本民家園 第7代

参事・園長 早野 清

今年は 日本民家園が開園して20周年を迎えます。古江亮仁初代園長をはじめ歴代園長の 努力の結晶として、21に及ぶ古民家等が、国や県の重要文化財に指定されて、3ヘクタールの多摩丘陵の自然の景観の中に佇んでいます。

いまでは、建物は勿論のこと町並そのものを保存していこうとする時代の中で、20年も前からこれを企画した方々の“先見の明”に頭がさがる思いがします。

私たちの生活を考えますと、コンクリートに囲まれ、家から職場までの道はすべて舗装され、靴が汚れることもなくなっています。

民家園では、門を入れば“土”の道があり、上を見れば樹木と空といった自然そのものに接することができます。またそこに佇む古民家は江戸時代のものであり、200年から300年の歴史が来園者にその昔を語りかけてくれます。一步家に入ると人の息吹きが感じられ、生活のにおいがそこはかとなく漂ってくるように思われます。20周年を機に「何を為すべきか」これが私の課題であるといえます。ひとりでも多くの人々のご意見を伺い、これからの民家園の展望への礎にしたいと考えております。

ご教示、ご鞭撻を心からお願い申しあげ、就任のご挨拶にさせていただきます。



## (園の動き)

## 10月までの行事案内

### ◆ 開設20周年記念「日本民家園まつり」

「日本民家園まつり」を5月1日から31日まで開催しました。

期間中、民俗芸能の公演、古民家の見どころ紹介、子ども写生会、手づくり民具の製作等を行いました。メイン行事である民俗芸能公演を雨天のため一週間延期したものの、「まつり」開催中一日平均857人の入園者を数え、なかなかの盛況でした。

### ◆ 民家園協議会開催 <6/26>

昭和62年度第1回日本民家園協議会を開催しました。

今回は、本館建設の基本構想策定について、前期までの各委員の先生方に加えて助言者及び行政メンバーの方々にも加わっていただき、これまでのまとめの経過と今後の進め方についてご討議いただきました。

### ◆ 夏休み郷土学習<8/8・9・13>

- 申 込 7/26(日)午前9時より電話で先着順
- 定 員 25名 ○対 象 小学4年~中学生向

### ◆ 民家に学ぼう会(秋季講座)<9/20・27>

- 申 込 8/30(日)より往復ハガキで先着順
- 定 員 30名(2日間とも出席できる方)

### ◆ 親と子の手づくり教室(ダンゴ作り)<10/4>

- 申 込 9/20(日)午前9時より電話で先着順
- 定 員 20組 ○教材費 300円

### ◆ 日本民家園、ボランティア講座<10/24・27・31, 11/14・21・28>

- 申 込 9/27(日)午前9時より電話で先着順
- 定 員 20名

## ◀ 年 中 行 事 ▶

◆盆 行 事 オショロウダナなど <8月中>

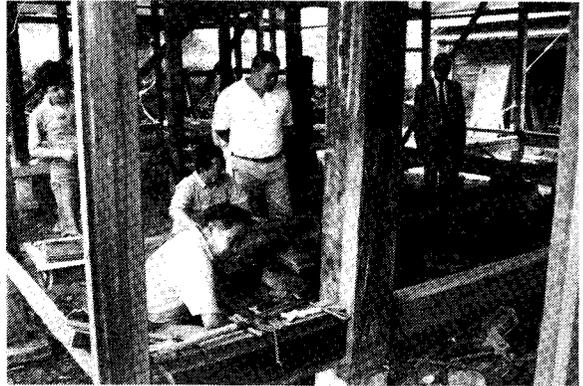
◆十 五 夜 お月見のお供え <10月中>

◆刈りあげ 稲の刈り上げ祝い <10月中>

# 旧岩澤家住宅の解体工事はじまる!!

62年4月、川崎市に寄贈された 神奈川県愛甲郡清川村にある県重要文化財指定の旧岩澤家住宅の事前調査及び解体調査が開始されました。旧岩澤家は清川村の役場より厚木方面に少し戻った中程の小鮎川に沿った丘陵にあり、屋敷の前には田んぼがひろがり、裏手には茶畑があり、その後ろには、うっそうとした杉林があります。

時折り、餌を求めてサル・シカ・イノシシが出現するとかで、現在でも山に入ると炭焼き小屋があり、県内でものどかな景観が ажわえる土地です。旧岩澤家は17世紀末ごろに建てられたと推定される農家で、創建当時の住宅の規模は間口14.63m（8間）奥行10.05m（4間）で、茅葺きの寄棟造りです。間取りは土間のほか、ひろま・でえ・へやがある「ひろま」型といわれる近世の古民家の特徴をもった県内でも数少ない型式の住宅です。数年後には当園の「神奈川の村」に復原されることになっております。



技術指導 関口 欣也 氏  
(横浜国立大学工学部教授)  
(日本民家園協議会副会長)

## 手づくりワラ細工

～あなたも作ってみませんか～

8月23日（日）は、民技会員が来園の皆様へ技術指導し、ワラ細工などをご自由にご作っていただくサービスデーです。

今では身近かなものでなくなってしまったワラを使って、生活の用具を作ってみませんか。

ぞうりやワラジは、多少の経験がある方なら作れます。始めてワラ細工をする方でも、ワラ馬などは作れます。そのほかご希望があれば何んでもお作りください。お子さまの夏休み工作としてもユニークな作品となるでしょう。ご年配の方



には、郷愁と実用をかねたものとして、また古くからの伝統をもつ庶民のくらしの用具としてのワラ細工を、ぜひこの機会にどうぞ。ご家族での、夏休みプランに予定されてはいかがでしょうか。

当日は民家園内の @番旧作田家前庭が会場です。直接お越しください。時間は午前10時～午後3時 参加自由 無料です。

## 民具製作技術保存会員

8月～10月の行事予定（見学できます）

◆8/23 入園者サービスの日（自由参加）

◆10月下旬 多摩区民祭・ふるさとの森まつり参加

◆8/2・30。9/13・27。10/4・11。

ぞうり・わらじ・背負袋づくり。

◆8/9。9/20。10/18。

菱四ツ目カゴ 花器・竹箕づくり。

◆8/2。9/6・20。10/4・18。

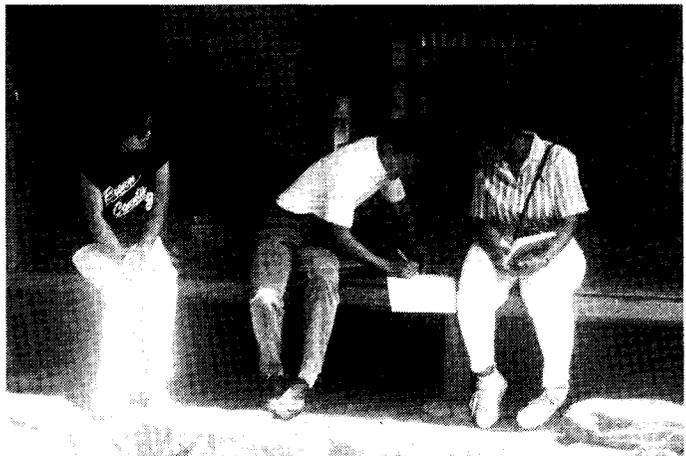
ボタン織りと、イザリ機織り。

# ボルチモア市より青年研修員を迎えて

～日本民家園研修～

去る7月7日(火)より9日(木)にかけて、川崎市と姉妹都市である米国メリーランド州ボルチモア市より青年研修員相互派遣事業の一環として、同市経済開発公社にお勤めのダイアン・C・アルストン嬢が来園しました。初日には、園内にある宿場の商家をはじめ、各地方の民家をつぶさに見学してもらいました。特に見学中は、古民家の間取りや装飾等が表わしている江戸時代の身分制度に対する説明に関心を示しておりました。翌日は、生田緑地内の伝統工芸館、青少年科学館といった文化施設を見学し、さらに多摩区内の津久井街道沿いにある昔ながらの佇まいを見せている“桶屋さん”、お盆に向けてチョウチンの製作に大忙しの“チョウチン屋さん”を訪れ、作業の様様を興味深げに写真に収めていました。最終日には、当園へ移築予定である愛甲郡清川村の古民家岩沢家の解体現場を見学すると同時に、周辺地域の人々の生活の様子を直接肌を感じてもらいました。大学で建築学を専攻した方なので、解体現場見学は特に有意義な体験であったようです。

アルストン嬢は、園を去るにあたって以下のような丁寧な手紙を残して行かれました。



日本の昔の生活を熱心に聞く  
ダイアンさん(右端)

June 9 July 1987

Dear Mr. Hayano-san,  
I feel fortunate that my tour through Minka-Ea Museum was conducted by Curator Niikawa-san, and interpreter Sato-san. They discussed the functions of each house, that is, how each area within the house was used. They described the class of the inhabitants of the houses, and how local governments would restrict the use of certain materials to certain classes, like decorative roof tiles which could not be used for a commoner's house. They knew the geographical location of each house just by looking at windows and door locations, and roofing. Certain customs described were very unique to Japan. For instance, the Samurai's use, and the special enclosed toilet area compared to the commoner's very open areas were quite interesting to me.  
I am very appreciative of the individualized tour and the time that the Minka-Ea staff of Hayano-san, Churuma-san, Kinoshita-san, Niikawa-san and Sato-san gave to me. It has been a very enjoyable learning experience. Arigato ni narimasu. Sincerely,  
Diana Arigato gozaimashita.  
Dianne Weston-san  
Baltimore, Maryland  
United States of America

大奮と大臼磨く之間涼し  
夏後雨の草鞋の音の涼風  
涼風や切符の音の匂い立つ  
浦川

## 編集後記

今年の入梅時期は比較的快適な日が続きました。8月の声とともに、自然と爽涼を求め多くの方が来園されます。主に8月の夏休み期間は、こども向きの学習講座などの催し物を計画しておりますので、ご参加いただきたいと思います。また、グループによる写生会・俳句会の方のご利用も多いようです。

俳人協会 川崎会様へ!! 左の投句一部を掲載させて頂きました。ありがとうございます。